



豊 中 市 教 育 セ ン タ ー

〒560-0033 豊中市蛍池中町 3-2-1-600

TEL 06-6844-5290

FAX 06-6840-8127

平成 26 年 (2014 年) 1 月 6 日

第 60 号

『気になる子どもへの支援にあたって』

「落ち着きがなく、言われたことをすぐ忘れてしまう」「友人とのコミュニケーションがうまくいかず、すぐに手が出てしまう」「急に学校に行けなくなった。本人にも理由が分からない」「サ行の発音がタ行になり、うまく発音できない」など、教育相談に保護者からよせられる相談はさまざまである。このような状態にある3歳半から中学生までの子どもと保護者を対象に、教育センターでは、臨床心理士や言語聴覚士などの教育相談員が平日の来所相談やサタデー相談*で対応しており、その相談件数は年々増加傾向にある。

来所相談の個別ケースについては、保護者の了解を得て、学校園と教育相談担当者によりケース会議を開き、学校園での様子をお聞きし、教育センターでの相談内容も踏まえて、子どもについて専門的な見立てをお伝えしている。また、教育相談員を小学校に派遣し、子どもの様子について情報収集した後、関係の教職員に見立てをお伝えすることもある。これら情報交換を通して、保護者の安心感が高まるとともに、これまで分かりづらかった子どもの心理や行動などについての理解が深まり、対応がうまくいくようになったと学校園からお聞きする。そのたびに、背景も含め子どもの状況を十分に把握し、個に応じた対応をすることの重要性が実感される。

今年 11 月、スクールネット上に「気になる子どもへの支援のヒントー相談事例集ー」が掲載された。平成 21 年 (2009 年) 3 月に大阪府教育研究所連盟教育相談部会が編集し、冊子として各学校に配付されたものだが、執筆の中心は本市の教育相談員が務めた。発行から 4 年以上経過した今日でも、個々の子どもが示す様子を見立て、対応を考える上で有用であるとの声をいただき、必要ページを取り出して使えるようにアップロードした。事例別の「気になる子どもの背景と支援方法」や「子ども支援のポイント」が主な内容となっているが、教職員のみなさんが子ども理解を進める上で、また、校内のケース検討や研修の資料として活用いただき、子どもたちの学校園生活の安定化を図り、健やかな心の成長を育む取組みの一助としていただければと願っている。

*サタデー相談…毎月第 2 土曜日午前中に開設。初期相談のみで、保護者を対象とし、教育相談員が子どもの様子を聞いて、対応方法をアドバイスしたり、関係相談機関の紹介をおこなう。



確かな学び推進事業 秋田県の授業づくりと授業研究から学ぶ

10月12日(土)に小中学校研究協力員4名の先生方とともに、秋田県学力向上フォーラムに参加しました。秋田県の特徴として、小中学校が連携して授業研究を実施し、特に中学校では、導入・展開・まとめや主発問など、授業の構造を教科の枠を超えて、学校全体で論議できているという報告がありました。本市で活発に取り組まれている授業研究を、教科や校種の垣根を超えて、市内全域に情報発信、情報共有することが大切であると感じました。



平成23年(2011年)に3つの小学校を統合し、施設一体型小中連携校としてスタートしました。午前中は、湯沢東小学校と湯沢北中学校の授業を見学、午後は湯沢文化会館のフォーラムに参加しました。

ねらいーまとめ(ふりかえり)話し合い活動など、普段から実践している授業でしたが、子どもたちは、本時のめあて・ゴールを明確に意識し、参加していることが印象的でした。



フォーラムでは、学校全体がチームとして、自分の考えを30字~50字以内で整理して書く授業や、他教科の既習事項を活用し、多くのことばを使って発表する授業に取り組んでいることの紹介がありました。



学校PC 校務用・教育用 完備へ

今年度のパソコンの整備計画により、11月から順次工事を進めており、1月中旬には全校終了の予定です。この間、先生方には多大なご迷惑をおかけしていますが、みなさまのご協力のもと作業は予定通り進んでいます。新しくなった環境で、今後もICTの活用を進めていただきますようお願いいたします。

校務データ保管について

豊中市立小中学校全59校における校務データの保管場所が、従来の学習系フォルダ『先生(T)』からネットワークドライブ『X』・『Y』・『Z』になりました。より安全で安心して使用できる保管場所となっております。この機会に是非、校務データの見直しまたは整理整頓を実施し、活用してください。

PCサポートについて

PCの大幅な導入に伴い今後、多くのサポートが必要になることが予想されます。ICT機器の故障についてはヘルプデスク(0120-550-776)まで問い合わせください。また、ICT機器の活用や相談に関しましては、豊中常駐ヘルプデスク(066-844-5294)までご連絡ください。



10年経験者・初任者研修 レポート

10年経験者研修

今年度は、小学校27名、中学校14名、合わせて41名の先生方が10年経験者研修を受講されています。12月1日現在までに必修の研修が7回終わり、残すところ後3回となりました。

最近では、11月19日、21日の2日間に分けて、池田市教育センターで【保護者対応・学校危機管理について】の研修を実施しました。講師に峯本耕治弁護士をお招きし、前半は法的視点、SSWの視点からアセスメントやチーム対応の不可欠さについて講義いただきました。また、後半はその講義を踏まえて、具体的なケースについてどの時点でいじめと捉え、チーム対応を始めるのかを班で協議し、発表するという流れで進められました。とても身近なケースで、どの班も活発に意見交流が行われていました。

12月25日、26日には、初任者研修との合同研修も実施いたしました。



初任者研修

111名(小学校55名、中学校56名)の初任者の先生方は、各学校での校内研修に加えて、年間21回の校外研修を受講しています。

講義(2時間)の研修に加えて、講義によって得た知識を活用してワークをした後グループ内で協議・全体発表といった形式の研修、授業参観・実技研修・施設見学など、より実践的な内容の研修も行っています。下の写真は、先日行われた“人権について考える②”の様子です。



「グループでの協議」
“自分が考える人権課題について”を出し合い、グループごとに“人権を考える上で大切なこと”をまとめています。

「全体での共有」
グループでまとめたことを、代表者が発表しています。この後、指導主事から「心のアンテナを高く」の話がありました。



育てたい力を見通しての単元の逆さま設計、友だちと知恵を出し合う協同学習、多読へ誘う並行読書、国語科と他教科・他領域との横断的な学習など、子どもが国語科の力を育成する方策の結実。

新着図書

これらの図書は教育センターで貸出できます。(2週間以内)



中学生・高校生の携帯電話・スマートフォン・インターネット等を巡ってのトラブルが後を絶たない。大人さえ翻弄されるこの問題を子どもにどう教えるべきか。視点を変え、それらの利便性・不便性・危険性の三側面を整理しながら、新メディアとどうつきあうべきかについて根本的に考える。



「わかる授業」とは、どういふものか。特別な支援が必要な子どもたちへの手立てが、クラスすべての子どもたちの「わかる」につながる。ユニバーサルデザインという考え方を、具体的な実践を示しながらまとめた一冊。

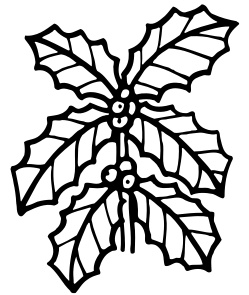
保護者からの相談に対して

2学期も終わりとなり、懇談などで保護者から子どもに関する相談を受けることが多くなっているかもしれません。今回はそのような時、保護者にどう対応すれば良いかを事例を通して考えてみたいと思います。

保護者から「最近、家庭での子どもの様子が反抗的で、言動も乱暴で気になる」という相談がありました。本児は少し控えめなところのある子ですが、何事も真面目に取り組み、友人関係も良好で楽しそうな様子がみられ、学校生活では問題なく過ごせているように見えています。担任の先生が、「学校でそんな様子はありません。特に心配ないので大丈夫ですよ」「家庭で何か課題があるんじゃないでしょうか？」と保護者に伝えたところ、保護者が怒って関係がこじれてしまいました。

＜なぜこんなことが起きてしまったのでしょうか？＞

- 要因①** 「特に心配ないので大丈夫」「家庭での課題」と決めつける対応になってしまった
- 要因②** 保護者の深刻な思いを十分に受けとめられなかった
- 要因③** 学校で見ている子どもの様子から、「そんな様子はない」とすぐに判断して、対応してしまった



＜どのような対応が保護者を安心させることに繋がるのでしょうか？＞

- 傾聴** 「もう少し詳しく教えていただけますか？」
→保護者の話を受け止めようというメッセージが伝わる
- ねぎらい** 「よくご相談くださいました」
→話してくれたことをねぎらい、丁寧に相談に応じていくことが大切
- 共感** 「それは心配ですね」「大変でしたね」「つらい思いをされましたね」
→保護者の気持ちに寄り添いながら話を聴いていく
- 即答しない** 「学校ではそんな様子は見られないですが、また良く見ておきます」
→その場で答えを出さず、他の先生にも聞いてみることも必要



☆対応のポイント

- まず十分に保護者の話を聴くこと
- 第一声は共感／ねぎらいの言葉から始める
- ・ 丁寧に受け止め、話の内容をわかりやすく整理する